

2023年3月14日(火) 口頭発表

	8201教室 A会場	8202教室 B会場	8203教室 C会場	8204教室 D会場	8205教室 E会場	8301教室 F会場	8302教室 G会場	8303教室 H会場	8304教室 I会場	8305教室 J会場
9:00						F-01 ○伊丹 幸衣 ¹ ・ 上村 香葉子 ¹ ・清水 信幸 ¹ (1.福岡県農林 業総合試験場) 調査油乳剤のイチゴ 実産量増進における 処理方法の違いがナ ミハダニの防除効果と作 業性に与える影響	G-01 ○金子 修治 ¹ ・ 城塚 可奈子 ¹ (1.大阪 理農水研) 大阪府の施設ブドウ におけるミヤコハカニ を利用したハダニ類防 除の現地実証	H-01 ○滝内 千実 ¹ (1.農研機構野菜花 き研究部門) ネキハモグリハダニの幼 虫生存率に関わる系 統間競争	F-01 ○伊藤 健司 ¹ ・ 藤田 政美 ² ・杉山 満 隆 ³ ・小原 慎司 ¹ ・手 塚 俊行 ¹ (1.株式会社 アグリ農研, 2.東大・ 農学生命, 3.日栄イン テック株式会社) 紫色LEDライトを用い たヒメカメコメントウ の誘導	J-01 ○白井 達 ¹ ・高 橋 誠 ¹ ・大平 学 ² ・ 高橋 洋雄 ² ・大門 高 明 ¹ (1.京都大学大学院 農学研究科, 2.東 京理農水産学部) Parental CRISPR: a versatile tool for insect genome engineering
9:15						F-02 ○可見 達也 ¹ ・ 藤井 聡子 ¹ ・武田 千 秋 ¹ ・森 光太郎 ¹ ・佐 野 真喜子 ¹ (1.石原産 業(株)) 殺虫剤シランニプロ ロールに関する研究 (第10報) - 果樹アザミ ウマ類に対する防除 効果-	G-02 ○中村 傑 ¹ ・吉 田 昂樹 ² ・高橋 佳大 ¹ ・中村 洋 ¹ (1.福岡県 農業総合センター-農 業研究部, 2.福岡県農 業総合センター-農 業総合センター) 福岡県北地域でのナ シ栽培におけるミヤコ ハカニ ¹ および天敵保 護防除体系がハダニ 類及びカブリダニ類に 及ぼす影響	H-02 ○野村 夏希 ¹ ・ 笠井 敏 ² (1.岐阜大学 2.静岡大・農) ヨソモンカメコメハダ ニの存在はシジロガサハ ムシの産卵数を減少さ せる	F-02 ○村田 篤志 ¹ ・ 手塚 俊行 ² ・杉山 満 隆 ³ ・藤田 政美 ⁴ (1.支 城東立農業大学校園 芸部, 2.株式会社アグ リ農研, 3.日栄イン テック株式会社, 4.東 大・農学生命) 紫色LEDライトを用い たバテンの定着増強 効果	J-02 ○藤村 康志 ¹ ・ 龍田 勝輔 ² ・松本 均 ² ・上山 拓己 ¹ ・近藤 浩 ³ ・早川 洋一 ² ・ 丹羽 龍介 ¹ (1.筑波大 学大学院付設学際研 究センター, 2.佐賀大 学, 3.東京理科大学生 命システム工学部, 4. 国立遺伝学研究所) The Zeste-Phase1 axis is responsible for stress-induced organismal death in the fruit fly <i>Drosophila melanogaster</i>
9:30						F-03 ○藤井 良人 ¹ ・ 富高 保弘 ¹ ・千秋 裕 也 ¹ ・松浦 昌平 ² ・大 西 純 ³ ・村上 理輝 ³ ・ 1.藤野 智也 ¹ ・安部 洋太 ¹ (1.農研機構植物 防疫研究センター, 2.農 業総合センター, 3.農 業総合センター, 4.環 境BRC) アザミウマのオルソト スボウイルス媒介に対 するプロヒトロジャモ ンの抑制効果	G-03 ○山口 果一 ¹ ・ 吉村 忠浩 ¹ ・三浦 浩 太 ² ・山中 英 ² ・森 光 太郎 ¹ (1.石原産業株 式(株), 2.滋賀県農業技 術普及センター) ミヤコハカニのナシ における設置方法及土 着カブリダニの発生消 長から見たハダニ防除 効果	H-03 ○阿久津 純一 ¹ ・ 松尾 隆嗣 ¹ (1.東京大 学) オウトウシヨウジョウバ エの産卵嗜好性に関 する研究	F-03 ○石崎 晴美 ¹ ・ 光永 貴之 ² ・村上 理 輝 ³ ・手塚 俊行 ¹ ・山 内 智史 ¹ (1.農研機 構・中農研, 2.農研機 構・植防研) 窒素の有様イチゴ商 品で利用可能な子トウ ムシ用ハンカー法の試 み	J-03 ○飛田 永 ¹ ・木 内 隆史 ¹ (1.大阪農 業)
9:45						F-04 ○大矢 武志 ¹ ・ 安部 洋 ² ・藤井 良人 ³ ・ 3.岡本 昌広 ¹ ・高田 洋子 ¹ ・藤山 雄巳 ⁴ (1. 神奈川県農業技術研 究センター, 2.理化学研 究所バイオリソースセ ンター, 3.農研機構植物 防疫研究部門, 4.日本 ゼオン株式会社) プロヒトロジャモソ液 剤を散布処理したトマ トでの病害虫防除効果	G-04 ○篠島 萌子 ¹ ・ 1(1.長野県果樹試験 場) アズナリカブリダニ の長野県のりんご樹及 びブルーベリー樹にお ける発生	H-04 ○栗 一村 ¹ ・○松 尾 隆嗣 ¹ (1.東京大学) 物体検出アルゴリズム を用いた行動アノーテ ーション	F-04 ○笹古 智一 ¹ ・ 村上 理輝 ² ・藤野 智 也 ³ (1.農研機構・植 防研) タイクヒメハナカメム シにおいて採餌行動に 関連する遺伝子の探 索	J-04 ○福井 康弘 ¹ ・ 庄司 佳祐 ² ・木内 隆 史 ³ ・藤山 雄巳 ⁴ (1.東 京大学・農学生命科 学, 2.東京大学・農 学・定置研, 3.東京大 学・新領域)
10:00						F-05 ○城塚 可奈子 ¹ ・ 金子 修治 ¹ ・堀上 理 輝 ¹ (1.(地裁)大阪 府立環境農林水産研 究センター) 露地ネギにおける赤色 防虫ネットと光反射材 の組み合わせによる ネギアザミウマの防除 効果とネギの収量	G-05 ○藤野 隆志 ¹ ・ 3.大江 高志 ¹ ・岡本 健行 ¹ ・木村 優太 ² ・ 2.廣田 峻 ³ ・4.田口 裕 純 ³ ・山田 佳久 ³ (1.宮 城農研, 2.宮城農研 普及防除部, 3.東北 大・農・森林生態, 4. 大宮公立大・付属植物 園) 宮城県内リンゴ園地 内のナミハダニ個体群 に対する周辺環境の影 響	H-05 ○堀田 誠 ¹ ・3. 栗 祥史 ¹ ・小高 信彦 ² (1.佐賀大学農学部, 2.森林総合研究所, 3. 鹿児島大学農学部) 伊豆群島におけるスタ ジタマハダニの分布孤 大と本州への侵入	F-05 ○藤野 智也 ¹ ・ 笹古 智一 ¹ ・村上 理 輝 ² (1.農研機構) 採餌行動を改良したイ タクヒメハナカメムシ 系統の発現変動遺伝 子の解析	J-05 ○Arhiani Kurma Hidayati ¹ ・ Takafumi N Sugimoto ² ・Ahmad Gazali ¹ ・Yohsuke Tagami ³ (1.UGSAS, Gifu University, 2.NAIRO, 3.Shizuoka University) Effect of Quorum Sensing Inducer and Inhibitor on Male Killing Induced by <i>Wolbachia</i> in <i>Aedes Bairdii</i> , <i>Ostrinia scapularis</i> (Lepidoptera: Crambidae)
10:15	A-01 ○酒井 大輔 ¹ ・ 坂巻 祥幸 ¹ (1.鹿児島 大学・農学部) トマトキバガと近縁種 の幼虫・成虫に関する 形態的識別(顕微鏡目 ・キバ科)	B-01 ○朝野 純紀 ¹ ・ 藤本 真生 ² (1.都立 大・環境・生命科学, 2. 杏林大・保健・臨床技 術) 長年の疑問「昆虫は 何故毒がないのか」 に関する新仮説	C-01 ○布施 寛人 ¹ ・ 川田 隆洋 ¹ ・○コル ネット リシャー ¹ (1.農 研機構) ネムリユスリカ由来の 培養細胞Pv11の風荷 方法の検討について	D-01 ○高谷 佑生 ¹ ・ 大畑 勇純 ² ・森 直樹 ² (1.東大・農・応用生 命), 2.東大・農・応用 生命) 海溶性ハネカクシの分 布するチルペンアル コイドについて	E-01 ○大久保 さくら ¹ ・山本 大介 ² ・Judith Willis ³ ・外川 徹 ¹ (1.日 大・文壇, 2.自治医大 動物学, 3.ジョージア 大) 蚊は弾性タンパク質レ ジリンと進化的に関連 する特徴的なテトラ タンパク質をもつ	F-06 ○山本 篤志 ² ・○ 澤村 信生 ¹ ・福岡 貴 輝 ¹ ・西山 達夫 ¹ ・角 塚洋子 ¹ (1.鳥取農技 研, 2.東大農研機構) 露地ネギにおけるネギ アザミウマの防除にお けるネギアザミウマの 発生抑制	G-06 ○堀井 伸一 ¹ ・ 田中 拓 ¹ (1.静岡農 業技術研究所果樹研 究センター) 寒天ゲル上のカンキョ ウチップスゲルによる キノコカブリダニの飼 育法	H-06 ○角田 廉 ¹ ・○ 山田 直也 ¹ ・小原 幸 司 ¹ (1.茨城県農業総 合センター-園芸研究 部) 茨城県西部の露地ナ シ園地におけるコナカ イラムシ類と寄生蜂 の発生消長	F-06 ○田中 彩友美 ¹ ・ 水谷 優夫 ¹ (1.農研 機構・植防研) タバコカミカメによる 1日あたりのトマトキ バガの捕食量	J-06 ○小松崎 敏 ¹ ・ 吉川 誠一 ¹ (1.筑波大 学・生命環境) Examination of RNAi to screen elicitors derived from tortricid moth <i>Adoxophyes honmai</i>
10:30	A-02 ○黒田 康平 ¹ (大阪市立自然史博物館) 日本産シタケオヒロ コカガ科(チョウ目ヒ ロコガ科)各種の識別 、およびシタケオ ヒロコカガの幼生期 形態と識別法の開発	B-02 ○上原 明也 ¹ ・ 高澤 優衣 ² ・相澤 美 風 ³ ・園田 昌司 ² (1.農 研機構・生物機能, 2. 宇都宮大学, 3.香川 県・防除研) 生理型が異なるネギア ザミウマ系統間による SNP情報による遺伝 的関係の解析	C-02 ○藤田 弥佳 ¹ ・ 劉 家銘 ¹ ・成 香慈 ² ・ 松井 正人 ³ ・小林 徹 也 ¹ ・藤田 政美 ⁴ ・安 田 智也 ¹ (1.農研機 構・生物機能利用部 門, 2.神奈川県立保 福社大学, 3.清水建設 株式会社, 4.東大 大学) コーヒ抽出かすを利用 したアメリカズアブ 幼虫大量飼育法の開 発	D-02 ○原谷 謙一 ¹ ・ 矢島 泰太 ¹ ・山中 康 史 ¹ ・地崎 晴 ¹ ・岩田 隆 太郎 ¹ (1.日本大学生 物資源科学部) ゴマダラカミキリ ¹ の寄 主選択 - 寄主である イタドリ利用の影響と 意義 -	E-02 ○藤 来希 ¹ ・藤 原 佳輔 ¹ ・笠原 敬輔 ¹ ・ 木村 将大 ² ・加藤 学 ³ ・栗山 心悟 ³ ・生 田 智樹 ³ ・松野 研司 ⁴ ・大野 修 ¹ (1.工學院 大・農工, 2.岩手県 大・農, 3.(株)山田建 築, 4.安田女子大) スズメバチに含まれる 新規生物活性物質の 単離と機能解析	F-07 ○嶋崎 寛彰 ¹ ・ 徳丸 晋由 ² ・伊藤 俊 2・山口 麗美 ³ ・田 島 敬 ³ (1.千葉県松戸 市, 2.京都市農技研, 3.東大・農学生命) ネギアザミウマの視覚 認知: 赤ネットはど うして防除効果が高い のか?	G-07 ○秋田 愛子 ¹ ・ 上里 卓己 ² ・安次高 厚 ¹ (1.沖縄農研セ ンター) 沖縄県の施設マン ゴーにおけるカイガラ ムシ類の種構成、お よびその主要種ミカン コナカイガラムシの薬 剤感受性と圃場での 発生実態	H-07 ○河野 浩太郎 ¹ ・ 1(1.農研機構生物機 能利用研究部門) 植食昆虫の食草決定 における重要な因子と しての比較長草、モン シロチョウ属とアゲハ チョウ属における例	F-07 ○小原 慎司 ¹ ・ 一志 貴斗 ¹ ・手塚 俊 行 ¹ (1.株式会社アグ リ農研) 施設栽培ナスにおけ るクロコウコンカミカ メを用いたネギアザ ミウマの防除	J-07 ○Fatan Abdelislam Hamdi ¹ ・ Nouraldin Abuafadi Ghazy ¹ ・2・Takeshi Suzuki ¹ (1.BASE, TIJAT, 2.Ishihara Suzuki Kaisha) An octopamine/tyramine receptor as a possible target for RNAi-based control of the two- spotted spider mite, <i>Tetranychus urticae</i> Koch
10:45	A-03 ○藤 謙一 ¹ ・ 藤原 謙一 ¹ (1.UT生命 研究部, 2.阪大・環 境, 3.九大・農比文) 台湾・琉球列島に分布 するガジュマル科バ タの分岐年代と生物地 理	B-03 ○神村 学 ¹ ・和 泉 隆雄 ¹ ・横井 潤 ¹ ・ 土屋 沙 ¹ ・鈴木 倫大 ¹ ・豊田 龍 ² ・横井 秀雄 ¹ (1.農研機構, 2. 滋賀研) リュウキュウツツハナ ムグリの構造多型を 生み出す分子カスニ ム	C-03 ○劉 家銘 ¹ ・上 原 拓也 ¹ ・園田 政美 ² (1.農研機構・生物研 究, 2.東大・農・農学生 命) アミノ酸トランスポー ター阻害によるアメ リカズアブ幼虫のア ミノ酸含有量の増加	D-03 ○釘宮 聡一 ¹ ・ 池本 康都 ² ・横井 智 之 ² ・平岩 将良 ³ ・前 田 太郎 ³ ・手塚 俊行 ⁴ (1.農研機構・植防研, 2.筑波大学・生命環 境系, 3.農研機構・農 研, 4.(株)アグリ農研) 訪花昆虫誘引成分の 探索	E-03 ○乾 洋洋 ¹ ・藤 川 環巳 ¹ (1.農研機 構・生物研) 若齢幼虫における転 写因子Chinmoと <i>Kr-h1</i> による変態抑制メカ ニズム	F-08 ○石川 博司 ¹ ・ 石井 直樹 ¹ ・石原 元 治 ¹ (1.鹿児島農研機 構試験場) イチゴのアザミウマ 類に対するネットの防 除効果について	G-08 ○石原 謙一 ¹ ・ 小笠原 南央 ¹ ・矢本 智之 ¹ (1.青森県技 研) リンゴの果実期にお けるチアクトリド水和 物のリゴビレアラ ラムシに対する効果と 訪花昆虫マメコバチ に及ぼす影響	H-08 ○河野 龍行 ¹ ・ 原田 博之 ¹ (1.農研 機構野菜花き研究部 門) オオタバコガ用性フェ ロモン誘引剤に同時 的に誘引されるアゲ ハチョウ科のオオタバ コガの間で想定 される繁殖干渉の悪 影響の回避	F-08 ○井村 岳男 ¹ ・ 鳥居 名実子 ² ・則上 彩花 ³ ・北村 幸生子 ³ ・今村 剛志 ³ (1.奈良 農研, 2.奈良北部農 業, 3.奈良中部農研) 奈良県の露地ナスで のオオタバコガ保護 利用は可能か?	J-08 ○山田 千穂 ¹ ・ 山中 聡 ² ・山口 英 生 ² ・日本 典博 ¹ (1.京 都大学大学院, 2.ア リス大(サイエンス) Gen <i>Amblyseius swainii</i> and <i>Amblydromalus limonicus</i> as used as biocontrol agents together? Discussion based on their dispersal behavior

2023年3月14日(火) 口頭発表

	8201教室 A会場	8202教室 B会場	8203教室 C会場	8204教室 D会場	8205教室 E会場	8301教室 F会場	8302教室 G会場	8303教室 H会場	8304教室 I会場	8305教室 J会場	
11:00	A-04 ○久野 未希 ¹ ・松尾 和典 ² (九州大学大学院 地球社会統合科学府, 2九州大学大学院 比較比較社会文化研究院) <i>Rhopalomyia</i> 属 (ハエ目:タマハエ科)に寄生する <i>Aerostictus</i> 属 (ハチ目:ヒメコバチ科)の分類学的検討	B-04 ○山本 大介 ¹ ・Ahmed Tabbabi ¹ ・水島 大貴 ¹ ・加藤 大智 ¹ (1.自治医大・医動物学部門) サリチン誘導子における <i>doublesex</i> 遺伝子オクルログの同定と発現解析	C-04 ○光畑 雅宏 ¹ ・眞藤 敏明 ² ・森 信之介 ³ ・浅田 真一 ⁴ (1.アリスライフサイエンス, 2.神奈川農林技術センター, 3.農産物産大・理工, 4.玉川大・農) 在来種クロマルハナバチによる日本ナシの受粉効果(続報) 一花粉媒介だけではいらない送粉者の役割一	D-04 ○西田 隼夫 ¹ (1.京都市) キバナコスモスに対するアゲハチョウの異常産卵行動と幼虫生育過程の追跡	E-04 ○瀧川 瑛日 ¹ ・菅 智洋 ¹ (1.農研機構・生物研) Chinmolによる変態抑制の分子メカニズム	F-08 ○本田 善之 ¹ (1.山口県農林総合技術センター) 「エトファンブロック油剤」散布後にFロートでドリフト送風する新たなトビロウカ防除方法の開発となたね油の効果の検証	G-09 ○上道 剛 ¹ (1.鹿児島農林総合技術センター) ゴボウヒゲナガアブラムシに効果のある天然高温植物の選定	H-09 ○水谷 信夫 ¹ ・田中 彰友美 ¹ ・松倉 晋一郎 ¹ ・田中 良明 ² ・池之上 祐紀 ³ ・榎 勇祐 ³ (1.農研機構 植物防疫研究所, 2.農研機構 生物機能利用研究部門, 3.鹿児島農林総合技術センター) 冬季の野外条件下におけるツマシロクサヨウの生存率	F-08 ○矢野 聖二 ¹ ・Hømerik Lia ² (1.奈良市, 2.Wageningen University) 遠隔地におけるタバコカスミカメの放散戦略のモデルによる検討	J-09 ○Pattara Opadith ¹ ・Northide Hinomoto ¹ (1.Kyoto University) Population structure of the Japanese orange fly, <i>Bactrocera tsunensis</i> (Diptera: Tephritidae)	11:00
11:15	A-05 ○上宮 健吉 ¹ ・石川 重文 ² ・佐藤 安志 ³ (1.久留米大学・比較文化研究, 2.農研機構 農業生態学, 3.農研機構 農業生態学) ヒサカキグコナジミ(新種)の大発生とチャコグナジミとの分類学的関係	B-05 ○岡田 泰和 ¹ ・杉山 実優 ¹ ・新美 輝幸 ² ・山口 勝司 ³ ・重信 秀治 ³ (1.京都府立大学 理学部, 2.基礎生物学研究所 進化分子生物学研究センター, 3.基礎生物学研究所 進化分子生物学研究センター) オオノコクスストモドの武器形成遺伝子の解析I: 網膜の発現解析による探索	C-05 ○前田 太郎 ¹ ・平岩 得良 ² ・江崎 真美 ³ ・下村 友季子 ³ ・大江 孝明 ³ (1.農研機構 2.近畿大学・農学部, 3.和歌山県立総合研究センター) アブラナ科植物を用いたウメハチのミツバチ訪花の強化	D-05 ○成能 洋一 ¹ ・藤澤 可夢 ¹ ・田嶋 純 ² ・松山 茂生 ² (1.筑波大学・生命環境, 2.農研機構) チャ/ココモハマキの定位飛翔における風速の影響	E-05 ○高田 悠太 ¹ ・大坪 和香子 ¹ ・堀 雅敏 ¹ (1.東北大学・農) 青色光毒性を用いた <i>Drosophila melanogaster</i> の人為選抜による脂質代謝関連形質および腸内細菌叢の変化	F-10 ○榎 勇祐 ¹ (1.鹿児島農林総合技術センター) ベンズピリメキサン剤のドローン散布におけるトビロウカ防除の適切な散布時期の検討	G-10 ○藤 祥一 ¹ ・加嶋 崇之 ¹ ・藤 光太郎 ¹ ・佐野 真喜子 ¹ ・三谷 薫 ¹ (1.石原産業(株)) ペミテッチ®(アセチル化グリセリド)のチャ/ミドリヒメコバチに対する基礎評価	H-10 ○中林 ゆい ¹ ・大島 一正 ¹ ・2, 3(1.京都府立大学・生命環境, 2.京都府立植物園) シジミチョウ科の防衛共生の強度は天敵の多寡に応じて変化するのか?	F-10 ○守屋 成一 ¹ ・2, 志賀 正和 ¹ ・3, 足立 蓮 ¹ ・岸本 英成 ¹ ・三代 浩二 ¹ ・井原 史達 ¹ ・山中 正樹 ¹ ・4, 下田 真志 ¹ ・藤井 佳純 ¹ (1.農研機構, 2.つくば市, 3.土浦市, 4.大野城市) 導入天敵チュウゴクオナガバチ(チャ)放散後40年間の記録(1982-2022)	J-10 ○藤岡 幸真 ¹ (1.岡山大学・環境生命) <i>Diacamma</i> ants adjust liquid foraging strategies in response to viscosity	11:15
11:30	A-08 ○菅月 雅子 ¹ ・石川 麗 ² ・神村 幸 ³ (1.信州大学, 2.農研機構 農業生態学, 3.農研機構 農業生態学) RNAiによって生じたフェロモントオオモブトハムシの構造色変化	B-08 ○杉山 実優 ¹ ・岡田 泰和 ¹ (1.京都府立大学) オオノコクスストモドの武器形成遺伝子の解析II: 遺伝子機能スクリーニング	C-08 ○原田 真理子 ¹ ・秋山 星実 ² ・中村 佳子 ¹ (1.生物科学安全研究所, 2.SL Creations) ミツバチ幼虫女王蜂人工飼育の検討	D-08 ○田嶋 純 ¹ ・中野 亮 ¹ ・安居 拓磨 ¹ ・中村 佳子 ² ・岡島 大貴 ² ・竹原 剛生 ³ ・松田 浩 ⁴ ・池之上 祐紀 ⁴ ・榎 勇祐 ⁴ ・金城 邦夫 ⁵ ・村岡 和枝 ⁵ ・津波 優子 ⁶ ・石川 幸男 ⁶ (1.農研機構, 2.熊本県農業研究センター, 3.宮崎県総合農業試験場, 4.鹿児島県農業研究センター, 5.沖縄県農産物防疫技術センター, 6.茨城大学) ツマシロクサヨウのフェロモン	E-08 ○青木 雄一 ¹ ・麻生 久 ¹ ・原田 星彦 ¹ ・堀 雅敏 ¹ (1.東北大学・農) 青色光照射の昆虫細胞増殖抑制メカニズムの波長による違い	F-11 ○池田 重紀 ¹ ・近藤 知弥 ¹ ・菅原 友紀 ¹ (1.佐賀県) カンキョウのルーベ-ロウムシに対する4月のプロフェンジン水和剤とマシン油乳剤の混用散布が防除効果に及ぼす影響	G-11 ○加嶋 崇之 ¹ ・高安 龍 ¹ ・藤 祥一 ¹ ・藤 光太郎 ¹ ・佐野 真喜子 ¹ (1.石原産業(株)) ペミテッチ®(アセチル化グリセリド)のチャ/ミドリヒメコバチに対する生物性能試験	H-11 ○久保 潤興 ¹ ・矢野 修一 ² (1.京大・農・生体情報, 2.京大・農・生体情報) ハダニとカブリガエの攻防~網上で瞬化したハダニ幼虫の冒険~	F-11 ○浦野 忠久 ¹ ・砂村 栄力 ² (1.農研機構 総合研究所西支所, 2.農研機構 総合研究所) クヒアツヤミキリに対するサビダラオオホソカタムシの室内放散試験	J-11 ○Shine Shane Naing ¹ ・Takahisa Miyatake ¹ (1. Okayama Univ.) Effect of caffeine on the longevity of common green bottle fly, <i>Lucilia sericata</i>	11:30
11:45				D-07 ○岩井 雅慶 ¹ ・河野 暢明 ¹ ・2, 富田 勝 ¹ ・2, 3, 荒川 和晴 ¹ ・2, 3(1.農大・先端生命, 2.農大・先端生命, 3.農大・先端生命) 社会寄生型トゲアリが行う化学偽装機構の解明		F-12 ○岩本 智弥 ¹ ・清部 慎二 ¹ (1.山口県農林総合技術センター) クリノ蒸熱処理の導入に向けた課題と対策について	G-12 ○高安 龍 ¹ ・藤 祥一 ¹ ・加嶋 崇之 ¹ ・藤 光太郎 ¹ ・佐野 真喜子 ¹ (1.石原産業(株)) ペミテッチ®(アセチル化グリセリド)と既存化学農薬の体系・混用処理でのチャ/ミドリヒメコバチに対する防除効果	H-12 ○矢野 修一 ¹ ・小西 麻緒 ² ・牧野 順治 ² (1.京都府立大学 農学研究所 生体情報学, 2.京都府立大学 応用生物学系) カンザワハダニは天敵の足跡をどれくらい嫌うのか	F-12 ○高須 啓志 ¹ ・Sam Layheng ² (1.九州大学・農学研究院, 2.国立バタンバン大学) 侵入害虫キツネノコブシの生物防除の有効性1: カンザワハダニの発生消長	J-12 ○矢部 清隆 ¹ ・2, 3, 高 雄希 ¹ ・3, 高 守 ¹ ・松浦 健二 ¹ (1.京大・農・昆虫生態, 2.京大・農・昆虫生態, 3.Dept. Entomol. Texas A&M Univ.) A non-invasive method for estimating termite colony size using CO ₂ sensors	11:45
12:00	昼休憩(昼食)										12:00

2023年3月14日(火) 口頭発表

	8201教室 A会場	8202教室 B会場	8203教室 C会場	8204教室 D会場	8205教室 E会場	8301教室 F会場	8302教室 G会場	8303教室 H会場	8304教室 I会場	8305教室 J会場		
12:00	(休憩時間(昼食))											12:00
13:15	(休憩時間(昼食))											13:15
13:30	(休憩時間(昼食))											13:30
13:45	(休憩時間(昼食))											13:45
14:00	(休憩時間(昼食))											14:00
14:15	(休憩時間(昼食))											14:15
14:30	(休憩時間(昼食))											14:30
14:45	(休憩時間(昼食))											14:45
12:00				D-08 ○下田 武志1・ 農良 佳利1・上杉 龍士1(1.農研機構) バンカーシートの天敵 放出性:新規製品スフ ルバンカーシートの 特徴に及びにさらなる 技術的改善策	E-07 ○杉本 真史1・ Heran Benjamin1・ 宮田 真志2・佐々木 晋 彦3・陸山 大輔1(1.農 研機構・生物機能, 2. 福井大学, 3.五川大 学・生物学部) 昆虫培養細胞を用い たメス化能を持つボル バキアのスクリーニン グ		G-13 ○華山 靖成1・ 吉永 美樹1・戸田 世 嗣1(1.熊本県農業研 究センター) トマトキバガの発生地 周辺における発生ハ ターフ及び寄生範囲の 調査	H-13 ○高野 俊一郎 1・内海 好輝2・高野 啓志1(1.九大農, 2.理 研) キヤッサハコナカイガ ラシの加害による キヤッサハコ新芽の変形 とその分子機構	I-13 ○中島 優介1・ 徳丸 晋由1(1.京都府 農林水産技術セン ター) 京都府におけるネギハ ダグリ/エバイタイ ブの土着寄生バチ相	J-13 ○Tareq A. S. ABUBAKER1・Yuki MATSU1・Hideshi NAKA2(1.UGSAS, Tottori University, 2.FATU, Tottori University) Identification of the female sex pheromone secreted by <i>Bastilla arctotaenia</i> and related species (Lepidoptera: Erebidae)	12:00	
13:15				D-09 ○藤部 里菜1・ 中野 亮平1・齊藤 千 蓮1・吉崎 悠花1・土 井 誠1(1.静岡農林技 研) 温室メロンのミナキイ ロアザミウマおよびタ バコナジラミに対す る総合防除体系	E-08 ○大塚 友多1・ 杉本 真史1・新井 大 1・小坂 敏弘1・道 智 夫1・西野 純平2・小 道 美穂2・庄司 佳祐 3・高塚 秀樹1・藤井 優4・有村 慎一1・木 内 隆史1・藤岡 進1(1. 農研機構・生物機能 ・植物防除) ヒトビロウカとアワノ メイガへの人工接種に よるボルバキアの定着 と表現型		G-14 ○永井 一哉1・ 那須 美夫1(1.日種防 病山) 日種防病山試験地の 水稲・畑作物に発生す る害虫の特徴	H-14 ○伊藤 桂1・高 月 幹太1・塔在 康(1. 高知大学農林海洋科 学部) ハダニにおけるホス トレス間の交雑が寄 主利用範囲に与える 影響	I-14 ○土田 祐大1・ 堀井 祐一1・佐分 敬 2(1.静岡農林技研, 2. 静岡大学農学部) 高品質な代替餌の存 在下における2種広食 性カブリダニのギルド 内捕食および共食い がミカンザビダニの生 物的防除効果に及ぼ す影響	J-14 ○阿部 晴1・安 藤 悠矢1・大野 和朗 1(1.首尾大学) Conservation biological control of the invasive pest <i>Spodoptera frugiperda</i> : Effect of vegetation management on parasitoids native to Japan	13:30	
13:45				D-10 ○藤森 風太1・ 嶋岡 高平2(1.奈良県 農業研究開発セン ター・2.奈良県南都農 林振興事務所) 奈良県のキュウリ抑制 栽培におけるタバコ スカミカとスワルスキー カブリダニを用いたミ ナキイロアザミウマと コナジラミ類の防除の 検討	E-09 ○廣田 加奈子 1・松田(幸平) 典子 1・福井 敏弘1・道 智 夫1・西野 純平2・小 道 美穂2・庄司 佳祐 3・高塚 秀樹1・藤井 優4・有村 慎一1・木 内 隆史1・藤岡 進1(1. 農研機構・農学生命 科学研究科, 2.徳島大 学・先端生命科学研究 所, 3.東京大学・定量 生命科学研究所, 4.筑 波大学・農学部) ボルバキアがアワノメ イガにおいて引き起こ すオオス殺し現象の原因 因子の同定		G-15 ○香川 清彦1・ 園田 昌司1(1.宇都宮 大学農学部) 宇都宮大学雄キャン パスにおけるモモヒヨ コバイの発生状況	H-15 ○岩佐 康1・伊 藤 桂2(1.高知大院 総合人間自然科学研 究科, 2.高知大・農林 海洋科学部) 系統樹を用いたハダ ニの食草利用能力の進 化ハターンの解明	I-15 ○藤 光太郎1(1. 石原産業株式会社) ミヤカブリダニの共 生微生物叢の解析	J-15 ○伊藤 和也1・ 矢野 修一(1.京大 院・農・生研情報) Amazing defensive and offensive interactions between diamondback moth larvae and parasitoid wasps	13:45	
14:00				D-11 ○安達 修平1・ 村田 岳1・高橋 保弘 1・藤井 見久1(1.農研 機構・植物防除) 地上部および地下部 害虫の同時防除に向 けたキュウリ苗へのプ ロヒドジヤクモン処理 条件の検討	E-10 ○大宇 幸1・嘉 津 洋雄1(1.東京慈恵 会医科大学) 寄生性ボルバキア による昆虫細胞にお けるウイルスRNAの操 作と複製阻害		G-16 ○植塚 守男 1(1.農研機構・植物 防除) ゴマダラミキリの生 活史の地理的変異お よび生息地と異なる気 候条件への順応	H-16 ○久保田 健嗣 1・竹山 さわな1(1.農 研機構植物防疫研究 所) シソザビダニからのシ ソサイクウィルスタ ンパク質の検出	I-16 ○奥村 雄一1・ 菊友典2・田中 利治 3・中 康史4(1.農研 機構大学農学部, 2.皇 親大学・農学部, 3. 名古屋大学) 幼虫の表皮を覆う殻膜 細胞による寄生の包 囲化作用の抑制とそ れに関わる遺伝子の 発現について	J-16 ○Nguyen Tuan Dat1・Le Thi Xuyen1・ Shun-ichi Takasu1・ Takasu1(1.Kyushu University) Host regulation by the mealybug parasitoid <i>Anagyrus lopezi</i>	14:00	
14:15				D-12 ○上村 香葉子 1・伊丹 香志1・清水 信孝1(1.福岡農林技 研) 促成トマトでのタバ コナジラミに対する土 着天敵タバコスカミカ と忌避剤グリセリン酢 酸エステル系を利用 したIPM体系の実用性	E-11 ○新井 大1, 2・ Arman Wjornarko3・ Shiour-Ruei Lin4・La Van Vang5・佐々木 晋 彦6・和野 正樹 7・井上 真紀2・陸山 大輔1(1.農研機構・生 物機能, 2.農工大院・農 学, 3.ガジマダ大学, 4. 合衆実業改良所, 5.カ ントー大学, 6.五川大 学, 7.慶応大学) 異なる <i>Walbachia</i> 株間 で保存されていたオス 殺しに関わるファージ WO領域		G-17 ○五味 正志1・ 尾野 慎也1・山内 進 矢1・峰 智之1(1.農 立広島大・生命環境 学) アメリカンロヒトリの3 化性地域における休 眠誘導の臨界日長の 地理的変異	H-17 ○大谷 友洋1・ 大矢 武志1(1.神奈川 農林技術センター) 露地ナスにおけるIPM 防除区でのカブリダニ 類の種構成	I-17 ○藤浦 勇一(1. 筑波大学・生命環境 学) カリヤコマバチにお けるギンケハダニの共 多寄生性を介した "非寄生昆虫"での 繁殖	J-17 ○Kuyen Thi Lai1・Det Tuan Nguyen-Takano Shun Ichiro1・Takasu Keiji1(1.Kyushu University) Host selection of the hyperparasitoid <i>Prochiloneurus pulehiellus</i> Silvestri (Hymenoptera: Encyrtidae)	14:15	
14:30				D-13 ○齊藤 千蓮1・ 中野 亮平1・藤部 里 菜1・土井 誠1・吉崎 悠花1(1.静岡農林技 研) 静岡土着系統のタバ コスカミカによる施設 栽培大玉トマトのタバ コナジラミ防除体系の構 築	E-12 ○藤山 実1・原 津 武真1(1.産総研・ 生物プロセス) カラムシ体内細菌の垂 直伝達を制御する分子 機構の解明		G-18 ○園田 敬太郎 1(1.滋賀県 農村振興 課) 「豊かな生きものを育 む水田」の生きもの調 査	H-18 ○井上 貴裕1・ 2・小池 優貴2・川田 進人2・吉田 知生1・ 水谷 高子1・小田 憲 司1・佐 藤 浩2・八田 岳士2(1.生物科学安 全研究所, 2.北里大学 院医療系研究科) 絶滅危惧種サンショウ バラにゴールを作るタ マハチ科(膜翅目)未 記載種とその寄生蜂 の発見ならびに絶滅 の脅威	I-18 ○阿部 芳久1・ 井手 竜也2・松尾 和 典1・前原 智3・藤 和 樹4(1.九大・北大, 2. 理研・動物学研究所, 3. 神戸大・農学, 4.九 大・地球社会) 絶滅危惧種サンショウ バラにゴールを作るタ マハチ科(膜翅目)未 記載種とその寄生蜂 の発見ならびに絶滅 の脅威	J-18 ○高橋 雄大1・ 猪飼 桂1・守川 貴裕 1・菅谷 快斗1・小林 正規1・出川 洋介1・ 大塚 盛也1・山田 明 徳5・井上 貴志5・木 藤 一(1.東京工業 大学・生命理工学院, 2.国立感染症研究所・ 寄生動物部, 3.筑波大 学・生命環境学, 4.理 化学研究所・JOM, 5. 長崎大学大学院・水 産・環境科学総合研 究科) Novel symbiotic protist lineages from the intestine of invertebrates: with a focus on the Blattodea insects	14:30	
14:45				D-14 ○岡本 真1・南 夏菜1・吉崎 千幸 1(1.和歌山農大) 和歌山県のミトマト 産地におけるタバコ ナジラミバイオタイプQ の薬剤感受性と栽培 初期の防除薬剤の効果	E-13 ○古賀 隆一 1(1.国立研究開発法人 産業技術総合研 究所) 想像をはるかに超えた カラムシ必須共生細菌 ゲノムの多様性		G-19 ○田中 一輝 1(1.宮城学院女子大) 温暖化が津軽のマダ ラスズの生活史を変え た	H-19 ○土 田 野1・杉 本 真史2・嶋田 穂 村1・原 2・鈴木 健 人3・別所 上原 美子 4(1.富山大学・学術研 究部理化学系, 2.富山大 学・農学部, 4.東北大 学・生命科学研究所) 新規のモデル昆虫、マ ダラケンツノウムン を用いた虫瘤形成機 構解明の試み	I-19 ○橋本 佳明1・ 坂本 洋典2・三浦 弘 樹1・長島 聖大3・五 箇 公一2(1.兵庫農立 大学, 2.国立環境研 究所, 3.伊丹市昆虫館) 特定外来アリ類の国内 侵入・定着の現状と 対策—ヒアリとアルゼ ンチンアリ	J-19 ○福永 貴義1・ 堀田 政典1(1.東京大 学・農学生命科学研究 科) Growth of black soldier fly larvae is unaffected by suppression of gut microbiome	14:45	

2023年3月14日(火) 口頭発表

	8201教室 A会場	8202教室 B会場	8203教室 C会場	8204教室 D会場	8205教室 E会場	8301教室 F会場	8302教室 G会場	8303教室 H会場	8304教室 I会場	8305教室 J会場	
15:00				D-15 ○ 松田 浩二 1・ 伊藤 祐真 1(1.岐阜農技セ)岐阜県で確認されたウロテンコナカイガラムシの殺虫剤感受性	E-14 ○ 藤原 展樹 1・ 猪飼 達 1・ 高橋 一樹 1・ 本橋 裕一 1(1.東京工業大学 生命理工学院)成虫樹皮及び分散過程におけるシロアリ腸内原生動物群集の伝播ダイナミクス		G-20 ○ 岡崎 裕介 1・ 渡部 宏 2・ 横井 智之 1(1.筑波大学・昆虫生態学, 2.昆虫科学センター)照度と音量がオオカキリの体色に及ぼす効果	H-20 ○ 津田 みどり 1・ サン ビュービュー 2・ 藤田 龍介 1・ サベト アハド 3・ フェリ ジュリア 4・ 東野 穂一 1・ 原 亮太郎 5・ 高尾 実 1・ 清水 邦義 1・ 久米 篤 1(1.九大・農, 2.イエジシ農大, 3.カフルエルシエイク大, 4.ヨーク大, 5.九大・理)高気温・CO ₂ 環境と <i>Wolbachia</i> 感染の体内外群集動態への影響・ナノ薬剤の天敵誘引効果	F-20 ○ 野村 拓志 1・ 渡部 晃平 2・ 平澤 桂 3・ 吉井 重幸 4・ 萩原 北斗 1・ 松原 昌 1(1.アース農研(株), 2.石川ふれい鳥, 3.カワセミ水産館, 4.福島農大(株))絶滅危惧種コバンムシの代替餌ポウフラを用いたときの生存率および成育期間	J-20 ○ Dwi Harya Yudistira 1・ Yongki Umam Sandi 2・ Satoru Sato 2(1.UGAS Iwate Univ., 2.Yamagata Univ.)	15:00
15:15				D-16 ○ 米津 聡浩 1, 2・ 森田 展樹 1・ 清道 至沙 3・ 井原 草吾 1(1.下八川 裕司1(1.高知県農業技術センター, 2.京都大学大学院・農学研究所, 3.高知県中央農業技術センター)施設ビームのコンカイガラムシ類に対する総合的防除体系	E-15 ○ 松田 直樹 1, 2・ 藤原 秀治 2(1.京大・農農, 2.基礎生物学研究所)オスのエンドウヒゲナガアブラムシにおける細菌プフネラとの共生の機能		G-21 ○ 千嶋 宏平 1・ 向井 環 1・ 青木 由典 1・ 高橋 明彦 2(1.富山県農技セ, 2.農研機構 中日本農研)富山県におけるクモヘリカメシの分布要因の検討	F-21 ○ 萩原 北斗 1・ 野村 拓志 1・ 有百立 一 ・ 松原 昌 1(1.アース農研株式会社)簡易人工吸虫法によるヒトシジマカの大童飼育の検討について	J-21 ○ Rahima Nyamotai Nassir 1・ Satoru Sato 1(1.Yamagata University)Effects of temperature on performances of <i>Hermetia illucens</i> larvae	15:15	
15:30				D-17 ○ 中野 亮平 1・ 藤部 里菜 1・ 齊藤 千蓮 1・ 土井 龍 1・ 吉崎 涼花 1(1.静岡農林研)イチゴのアザミウマ類に対する数種防虫ネット資材の侵入防止効果の比較	E-16 ○ 藤原 至希子 1, 2・ 吉崎 梨林 3・ 上野 龍百 4・ 孟 麗英 5・ 齋藤 崇一 5・ 土 田 勇 8(1.群馬大学・食センター, 2.理研・CSRS, 3.富山大・院, 4.久留米大学, 5.産総研・生物プロセス, 6.富山大・学術研究所)親しき中にも乳癌あり〜タバココロナゲマで進化した菌細胞内の様み分けシステム〜		F-22 ○ 本林 隆 1・ 上田 茂生 1・ 中村 誠大 1・ 日原 一雅 2(1.東京工業大学・農学部, 2.愛媛大学・農学部)種感受性分布(SSD)を活用した水田の水生昆虫群集に対する育苗箱処理剤の生態リスク評価	J-22 ○ Yongki Umam Sandi 1・ Satoru Sato 1・ Dwi Harya Yudistira 2(1.Yamagata University, 2.UGAS, Iwate University)Occurrence of <i>Hermetia illucens</i> and <i>Plectiscus tenebrifer</i> in the field	15:30		
15:45										J-23 ○ ERNEST METOU OU NKLOUM1・ ERNEST NKLOUM METOU OU1, 2, 3, 4・ SATORU SATO 1, 2, 3(1.university of yamagata, 2. Laboratory of Animal Ecology, 3.UGAS of Iwate University, 4.MINADER CAMEROON)Functions of Mud snail, <i>Bellamyia chinensis</i> laeta, on Rice and Japanese tree frog, <i>Dryophytes japonica</i>	15:45

2023年3月15日(水) 口頭発表

	8201教室 A会場	8202教室 B会場	8203教室 C会場	8204教室 D会場	8205教室 E会場	8301教室 F会場	8302教室 G会場	8303教室 H会場	8304教室 I会場	8305教室 J会場		
9:00	A-07 ○渡部 賢司・高須 陽子・飯塚 智也・宮本 和久(1.国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構) C専攻実体ノックアウトカイクを用いた高性能Bt菌探索の効率化					F-13 ○東田 豪太・沢田 義晴・岩佐 美次・武田 千秋・森光太郎・佐野 真喜子(1.石原産業(株)) 現地採集のアブラムシ類に対するフロニコミドの殺虫活性	G-22 ○佐々木 彰乃・村田 つばさ・中嶋 智樹・川上 拓一・西野 実・田中 千晴(1.三重県農業研究所, 2.三重県庁) タバコナゾミに対する <i>Beauveria bassiana</i> 乳剤の常温蒸露処理の検討	H-21 ○日置 千尋1, 2, 3・本間 淳1, 2, 3・池川 雄亮1, 2, 3・藤野 了州(1.沖縄病害虫防除センター, 2.琉球産経(株), 3.琉球大学農学部, 4.鹿児島畜産大学) 強制交尾によるメスのコストはこついで			9:00	
9:15	A-08 ○廣田 哲也1・木下 祐子1・今津 香織1・島塚 誠1・内藤 達1(1.アグロ カネショウ株式会社) 新規殺虫剤テトラニロプロールに関する研究5~テョウ目害虫に対する生物学的特性~					F-14 ○成宮 敏雄1・井澤 隆子1(1.佐賀県農業試験研究センター) 佐賀県の施設果菜類におけるタバコナゾミのバイオタイプ分布および効果薬剤の殺虫効果	G-23 ○大林 隆司1・佐藤 大樹2・松浦 優3・千代田 斗季(1.都農農研/徳立大, 2.農林総合研究所, 3.琉球大学・農生研, 4.筑山(市)) 日本におけるマツソホラ菌	H-22 ○Noureldin Ghazy1・Naoki Takeeda2・Masanobu Yamamoto2・Yasser Mohammad3・Kotaro Mori1・Takeishi Suzuki(1. Ishihara Sangyo Kaisha, Ltd., 2. Tokyo Univ. Agr. Tech., 3.AIST) Host plants and locomotion speed in phytoseiid mites			9:15	
9:30	A-09 ○所 尚典1・青藤 佳乃1・秋月 真也1(1.住友化学株式会社) アレス®箱剤の育苗箱施用によるイネムシゾウムシに対する作用特性					F-15 ○吉永 英樹1・樋口 聡志2・香山 靖成1・戸田 世嗣1(1.熊本農研セ, 2.熊本農林水産部) 侵入害虫トマトキバガに対する有効薬剤の探索	G-24 ○佐藤 大樹1・松浦 優2(1.農林総合研究所, 2.徳大・農生研) イワサキクサゼミから採集された昆虫疫病菌 <i>Entomophaga</i> sp. の記録	H-23 ○岩田 大介1・高橋 和次1(1.新潟県作物研究センター) 平坦部水田地帯におけるアカスジカスミカメの個体群動態			9:30	
9:45	A-10 ○藤部 彰1・八塚 拓1・小林 則夫1(1.茨城県農業総合センター-農業研究部) 登録失効薬剤の代替としてイネ結実枯病に防除効果の高い殺虫剤の検証					F-16 ○向井 環1・千嶋 宏平1・青木 由美1(1.高山農産技術) ハトムギ栽培におけるアワノメイガの薬剤防除適期の検討	G-25 ○洲崎 雄1・四本 瑞世1・綾方 浩基1(1.株式会社 大林 緑) 植物内の害虫のDNAメタバーコーディング解析に用いるプライマーの比較検討	H-24 ○吉田 達也1・長 泰行1(1.千葉大 院・応用農学) テリカブリダニが植物上に残す痕跡がナミハダニの分布を変化させる			9:45	
10:00	A-11 ○松村 正統1・真田 幸代1(1.農研機構植物防疫部門) 日本に飛来したトビイロウンカ・セジロウンカの薬剤感受性:2022年までの動向					F-17 ○角 葉津子1・澤村 信生1・山本 幸佑2(1.鳥取県技術, 2.東部農産セ) 鳥取県のえごまにおけるモンシロモチヨウの発生と防除について	G-26 ○池之上 祐紀1・末永 博1・大野 和朗2(1.鹿児島県農業開発総合センター, 2.宮崎大学) オサムシ科アオゴムシシテイトウのツマジロクサヨトウに対する土着天敵としての可能性	H-25 ○長 泰行1(1.千葉大学-園芸学研究所) ミミヤコブリダニにおける脚の匂い手がかりにした托卵			10:00	
10:15	A-12 只津 美祐1・坂下 希太1・Pantelis Reftelis2, 3・Douris Vassilis4, 2・Vontas John2, 5・下園 悠士6・石田 達也6・須藤 正樹7・Van Leeuwen Thomas8・Ojima 正博(1.京都大学, 2.FORTH, 3.Univ. of Crete, 4.Univ. of Ioannina, 5.Agric. Univ. Athens, 6.協友アグリ(株), 7.農研機構植防研, 8.Ghent Univ.) ミソハダニのエトキサゾール抵抗性におけるキチン合成酵素CHSI 1101F変異の役割と地理的分布の偏り	C-07 ○吉田 和弘1・和田 健2・松倉 智一郎3・森 卓也3(1.奈良女子大, 2.なし, 3.農研機構-植防研) スクリンコガイの越冬可能地域の推定	D-18 ○阿部 成人1・向 祐太郎1・今井 健吾1・柴田 真真1(1.徳島農産技術セ) ハダニ類に対する改良スライドタイプ法(テープ法)を用いた有効性の検討	E-17 ○飯原 麻理1・近藤 悠隆2, 1・芳山 三智雄1(1.農研機構畜産研究部門, 2.筑波大 院 生命環境) メタゲノム解析による蜜露・花粉源植物の網羅的解析	F-18 ○弘岡 拓人1・相田 晋彦1(1.和歌山県果樹試験場かき・もも研究所) クビアツカヤカミキリに対する物理的防除法の検討	G-27 ○田崎 研1・吉村 義嗣1・上杉 穂士1・下田 武志1(1.農研機構東北農研) おとらっぱによって捕獲されるヒラタアブ類:設置場所と種構成比較	H-26 ○齋取 都夫1・佐藤 仁亮1(1.五畿大学-農学部) ジャコウアゲハの訪花行動における匂い学習					10:15
10:30	A-13 ○山本 直前1, 2・土井 隼1, 3・井口 雅裕1, 4・野田 隆志1, 5・山袋 悠史1, 6(1.農林害虫防除研究会, 2.日本曹達株式会社, 3.静岡県産産業部, 4.和歌山かき・もも研, 6.1.植防, 6.2.JA全農) 殺虫剤抵抗性発達段階の区分指標で判断ミスを減らす	C-08 ○北野 大輔1・近藤 篤1・小久保 智哉1・栗田 隆登2・山本 航平2・増田 健士郎1(1.遊覧農技センター, 2.遊覧大津南都農業事務所) 温帯果におけるスクミンコガイ水田越冬個体の分布の偏り	D-19 ○岸 茂樹1・福徳雄1・川口 章3・越智 重2・吉田 めぐみ2・山中 武彦1(1.農研機構-農情研, 2.農研機構-植防研, 3.農研機構-西日本農研) 機械学習手法と統計モデルによる病害虫発生予測の比較	E-18 下町 大芽1・F 洲崎 雄1(1.大阪公立大学-院 農) セイウミツハチの脳における日出口因子PDF分布パターンの日周変化	F-19 ○高瀬 康平1・衣浦 晴生1・田村 繁明1・金子 修治2・上地 実典3・小野寺 隆一4・藤山 健介(1.農林総合研究所, 2.大阪道農水研, 3.農研機構植防研, 4.東北特産, 5.埼玉大) 振動によるクビアツカヤカミキリの検知と行動制御-成虫・幼虫の野外試験	G-28 ○池川 雄亮1, 2, 3・日置 千尋1, 2, 3・本間 淳1, 2, 3(1.琉球産経, 2.沖縄防技セ, 3.徳大・農) N混合モデルを用いた津室島のイモゾウムシの個体数推定と根絶防除への応用	H-27 ○中野 亮1・青木 元彦2・山岸 希3(1.農研機構-植防研, 2.道産研-道南農試, 3.長野県野菜花き研) 超音波を介したアブラムシの飛翔抑制と防除への応用					10:30
10:45	A-14 ○奈良井 祐隆1(1.鳥取農技センター) ミカンキロアゲザムマの薬剤検定に使用する植物葉について	C-09 ○金塚 寛俊1・駒形 義1・桐谷 幸生1・榎川 清1・小高 貴史1・貴志 博郎1(1.三井化学アグリ株式会社) ジノテラン液剤の水稲大型カメムシに対する防除効果	D-20 ○佐々木 都弥1・森 卓也1・松倉 智一郎1(1.農研機構 植物防疫研究部門) 飼育に依存しない発育時点および有効積算温度の推定手法の検証	E-19 ○見上 幸1・長 智佳子2・山本 義孝2・井上 祐子2(1.生物のぐみ研究所, 2.株式会社 アビモント) セイウミツハチにおける大規模な人工授精実施報告	F-20 ○大江 高穂1・関根 康行1・駒形 泰之1・小野寺 隆一2・阿部 剛太2・高根 琢磨2(1.宮城農研, 2.東北特産(株), 3.農林総合) 振動によるトマトのオンソコナゾミ寄生密度抑制と着果促進-現地生産施設における実証-	G-29 ○古川 あずさ1・井手 洋一1(1.佐賀県農業試験研究センター) 佐賀県の秋まきタマネギにおけるネギアザミウマ寄生密度と貯蔵腐敗の関係	H-28 ○曾根 蒼太1・宮竹 貴久1(1.岡山大学大学院環境生命科学研究科) 佐賀県の秋まきタマネギの性コストとメシキの性系統特異的な光誘引					10:45

2023年3月15日(水) 口頭発表

	8201教室 A会場	8202教室 B会場	8203教室 C会場	8204教室 D会場	8205教室 E会場	8301教室 F会場	8302教室 G会場	8303教室 H会場	8304教室 I会場	8305教室 J会場		
11:00			C-10 ○清水 信孝 1(1.福岡県農林業総合試験場) 福岡県のイネカメムシに対する数種薬剤の感受性	D-21 ○夏月 達太・矢代 敏久2・真田 幸代2・丸山 真志3(1.農研機構・九冲研, 2.農研機構・植防研, 3.農研機構・農環研) 群管内候気象を考慮したウツカ3種の発生予測高精度化	E-20 ○小沼 真文1・佐々木 慶1(1.玉川大・院・農) 真社会性ハナバチ類の寒期における脳内ドーパミン関連物質量と関連遺伝子発現量のカーブ差	F-21 ○西末 浩司1・福田 信二1, 2・中野 亮3・渋谷 和樹3・杉浦 健2(1.東京農工大学, 2.農研機構農情研, 3.農研機構植防研) 時系列3次元点群データによるハスモンヨトウ (<i>Spodoptera litura</i>) の飛翔姿勢の推定	G-30 ○佐藤 信輔1・小河原 孝司1(1.茨城県農業総合センター-園芸研究所) ネキハモグリバエ別系統の多発時期に対応した防除体系の検討	H-29 ○左倉 和喜1・仲田 真幸2・谷野 宏樹1・千原 康彦1(1.基生研・進化発生研究部門, 2.秋田合研・秋田合連シミュレーション(研究系)) 陸生昆虫カプトムシ <i>Trypoxylus dichotomus</i> が示す游泳と歩行の力学的解析			11:00	
11:15			C-11 ○柴 卓也1・平江 雅宏1・八重 拓2・前部 彩2・阿曾 和基3・近藤 篤4・小久保 信徳4・柳澤 尚加里5・成富 龍雄6(1.農研機構, 2.茨城農総セ研, 3.長野農試, 4.滋賀農総セ, 5.兵庫農総セ, 6.佐賀農研セ) メッシュ農業気象データを用いたイネ稲葉枯病の薬剤散布適期診断システム	D-22 ○松倉 啓一郎1・真田 幸代1・藤井 智久1・松村 正樹1・柴 卓也1(1.農研機構・植物防疫研究部門) 九州のヒメビウソカ越冬世代幼虫の低温耐性と発育速度	E-21 ○渡邊 智大1・小沼 真文1・森上 尚加1・西村 正和2・小野 正人1・佐々木 慶1(1.玉川大・院・農, 2.玉川大・ミツバチ科学) キアシナガバチのオオスズメバチ認識機構について	F-22 ○玉井 一彦1・池上 頼大2・原田 嘉理1・阿部 謙1・野崎 新作1・小堀 尚広1・松井 健二1(1.アース工業株式会社・研究部, 2.山口大学・農学部, 3.山口大学大学院・創成科学(農)) 特定防除資材(食餌)がハダニのホスト選択に与える影響とそのメカニズム	G-31 ○廣根 兼行1・大江 高輝1・駒形 泰之1・坂浦 進1・道藤 友重1(1.宮城県農業・園芸総合研究所) キャベツ園圃への二次植物導入による害虫抑制効果	H-30 ○小島 夢1・中田 敏也2(1.山口大学大学院 創成科学研究科, 2.千葉大学 大学院工学研究科) 甲虫類の硬い外骨格は鳥類からの捕食回避機能を持つ				11:15
11:30				D-23 ○吉田 雅紀1(1.岩手県農業研究センター) 岩手県における1kmメッシュ農業気象データを活用した斑点カメムシ類の発生時期の推定	E-22 ○石川 直史1・久保 良平2・小野 正人1, 2(1.玉川大・院・農, 2.玉川大・ミツバチ科学) キアシナガバチのオオスズメバチ認識機構について	F-23 ○原田 直理1・倉島 勇気1・松尾 昌1・五箇 公一2(1.アース工業株式会社, 2.国立環境研究所) ダニ媒介感染症予防を目的としたマダニ緊急防除手法の開発	G-32 ○橋本 みさき1・本間 洋1, 2・原口 大1(1.沖縄県病害虫防除技術センター, 2.琉球産経株式会社) 石垣島で採取したミカニコモバエ種群に対する誘殺板による防除効果の検討	H-31 ○吉塚 知夢1・園田 幸哉2・善月 雅子1・原田 泰和1(1.真山大学・院・環境生命) オオツノコクストモトキにおけるインスリン様ペプチドの多面的機能解析				11:30
11:45				D-24 ○柳澤 尚加里1・八重 拓也1(1.兵庫農立農林水産技術総合センター) <i>Pomacea canaliculata</i> 越冬可否の早期推定	E-23 ○西村 正和1・久保 良平1・小野 正人1, 2(1.玉川大・ミツバチ科学, 2.玉川大・院・農) 捕食者オオスズメバチの糞尿をその揮発性体臭成分により認識するモンスズメバチ—特にトヨウミツバチとの相違点について	F-24 ○小俣 良介1・宮田 智波1・田中 江里1(1.岡山県農業研究科) 茶園における除虫菊乳剤のチャドクガ <i>Euproctis pseudoconspersa</i> の防除効果	G-33 ○本間 洋1, 2・3・橋本 みさき2・原口 大2(1.琉球産経株式会社, 2.沖縄県病害虫防除セ, 3.琉球大学・農学部) ミトコンドリアDNAハプロタイプによるミカニコモバエ種群 <i>Bactrocera dorsalis complex</i> の誘殺地域間比較	H-32 ○沼野 泰南1・新屋 良治1(1.明治大学・農学部) 微小な捕食者間では体サイズに依存せず勝敗が決する				11:45
12:00	昼休憩(昼食)										12:00	

2023年3月15日(水) 口頭発表

	8201教室 A会場	8202教室 B会場	8203教室 C会場	8204教室 D会場	8205教室 E会場	8301教室 F会場	8302教室 G会場	8303教室 H会場	8304教室 I会場	8305教室 J会場	
12:00					昼休憩(昼食)						12:00
13:15				D-25 ○山本 啓1・星野 澁1(1.広島緑研農技セ)	E-24 ○渡川 伸太郎1・久保 良平2・小野 正人1, 2(1.玉川大・農・農, 2.玉川大・モツバ科学)	F-26 ○高屋 宏1・佐藤 安志1・須藤 正彬1(1.農研機構 植物防疫研究部門 金谷茶葉研究拠点)	G-34 ○村田 未果1・田中 彰友美1・水谷 信夫1・飯田 博之1(1.農研機構 植物防疫研究部門)	H-33 ○城田 安幸1・佐藤 悠平1・城田 創1(1.医薬同業りんご園農研)			13:15
13:30				D-26 ○小野 麗1・大田 祥平1・菅野 伸徳1・岡崎 秀夫2・野村 雄太3・植原 穂3(1.京大・院・農, 2.山口農林総合技セ, 3.大分農林水研果樹部)	E-25 ○牧野 麗治1(1.京都工業繊維大 学 資源昆虫学研究部)	F-28 福田 正家1・グエン・タン・フォン1・坂巻 祥孝1・鈴木 智久2・野邊 勝郎3・百田 光4(1.鹿児島大 学・農学部, 2.カワサキ精工株式会社, 3.鹿児島県果菜開発総合センター, 4.株式会社伊藤園)	G-35 ○石島 力1・寺崎 亮1・大角 佳弘1(1.農研機構・中日本農業研究センター)	H-34 ○横井 智之1(1.筑波大学・健全生体)			13:30
13:45				D-27 ○藤澤 健介1・岸本 美成1・三代 浩二1・外山 晶敏1・佐藤 安志1・須藤 正彬1・高屋 宏1・土 田 聡1・井上 広光1(1.農研機構果樹部)	E-28 ○社 和希1, 3・山道 真人2・植松 潤平3(1.琉球大学・農学部, 2.クイーンズランド大・生物科学, 3.鹿児島大・総合農学研究科)	F-27 ○清水 優子1・原口 大1・日置 千尋2・河村 太1, 4・栗園 佳史3(1.沖縄県病害虫防除セ, 2.琉球産経(株), 3.沖縄県農研セ, 4.沖縄県農研セ)	G-36 ○北村 堂史雄1(1.農研機構 西日本農研)			13:45	
14:00				D-28 ○八瀨 麗也1・柳澤 由加里1(1.兵庫県農技センター)	E-27 ○後藤 彰子1・竹島 実加1・水谷 健一2(1.甲南大学, 2.神戸学院大学大学院)						14:00
14:15				D-29 ○渋谷 和樹1・遠藤 慎幸1・竹内 博昭2(1.農研機構植物防疫, 2.農研機構中農研)	E-28 ○砂村 栄力1・寺山 守2・藤巻 良太3・小野 高志3・ブチコフスキー ジェゴージン4・江口 克之2(1.森林総合研究所, 2.東京都立大学, 3.八丈町, 4.パテュー大)						14:15
14:30				D-30 ○日高 直毅1・大塚 彰1・根治 貴志2・比嘉 真太2・金城 邦夫2・池之上 祐紀3・串 達彦4・陀安 一郎4(1.農研機構, 2.沖縄農防技セ, 3.鹿児島県農防技セ, 4.地球研)	E-29 ○田崎 英祐1・井内 良仁2・松浦 健二3(1.新潟大・理, 2.山口大院・創成科学, 3.京大院・農)						14:30